

## ジョージア (グルジア) 便り その57

## 懐かしのソ連邦?

文 高野陽年 text by Yonen Takano

ツアーへ出発する日にパスポートを開くと残りのページがほとんどなくなっていた。入国審査の際に問題があるといけないと、急いで日本大使館で増補の手続きをした。ものの15分で出来上がったぶつくりと膨れたパスポートはなんだか誇らしい。一枚一枚見返していくと過去のツアーや舞台の記憶が蘇ってくる。ロシア、ベラルーシ、ジョージア、カザフスタン、どうやら僕のパスポートのスタンプは旧ソ連のもので半分以上埋め尽くされているようだった。今回の行き先もウクライナのキエフでまた旧ソ連のスタンプが増えることになる。

旧ソ連のノスタルジーはソ連製のカメラで収めようと骨董市場へその足で向かった。ベラルーシの工場で作られたゼニトというカメラを手に入れた。最近ゼニトは若い世代に流行っているようで、SNSなどを開くとゼニトで撮られた写真もよく見る。僕より5歳ほど年を食っているカメラだが新品のように動きも良い。かつてベラルーシがソ連の重要な工場地帯だった時に大量生産されたものらしく5000円もせ

ずに手に入れる事ができた。

ゼニトを携えキエフへ向かうと、サンクトペテルブルクに似た美しい街並みが目に入った。玉ねぎ型をした聖堂は荘厳である。灰色の空、銀色の積もった雪、茶色の毛皮のコートを着た女性達。この色の組み合わせはソ連時代から変わっていないのだろう。

一際賑わっているカフェはソ連ノスタルジーをテーマにしたお店で、古い映画を流し、おばあちゃんが作ったようなジャムとピロシキが売られている。となりにあるイタリア系のコーヒースタンドよりも流行っているようだった。

劇場でのリハーサルを終え、ホテルへ向かうと異様な光景が目に入った。広場に立つスタチュウ、そしてその周りに手向けられた花束、階段の途中には石碑もある。どこかテレビで見覚えがある光景である。そうここはウクライナ騒乱の際に一番の衝突があった広場だったのだ。広場から逃げてきたデモの参加者達は劇場にも逃げ隠れていたらしい。古い街並みのキエフにあって全く新しく整備されているこの場所は、逆に騒乱の激しさを物語っている

ようだった。

強いソ連の復活を目指す者、西側の開かれた民主主義を目指す者達がこの間まで争っていたこの場所。ゼニトのファインダーを通すとソ連の亡霊が写り込んできそうに怖かった。

キエフはトビリシ以上にソビエトのノスタルジーに生きている街のような気がした。懐かしきソ連なのか憎きソ連なのか人々は迷っている。

## Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

